

第1回 熊本市部活動改革検討委員会

<議事録>

令和6年(2024年)12月25日

Spring 熊本花畑町ビル7階D会議室

○次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 教育長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 委員長選出
- 6 諮問
- 7 報告

「熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方(素案)」

資料1

- 8 協議 「今後の新しい学校部活動の課題」

(1) 指導を希望する人材の確保の方策

資料2

(2) 指導者の研修体制の構築に向けた方策

資料3

- 9 諸連絡

- 10 閉会

○議事録

1 開会

【清水教育審議員】

それでは定刻となりましたので、これより第1回熊本市部活動改革検討委員会を開会いたします。本日は、第1回目の検討委員会にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。

私は、本日進行を務めます熊本市教育委員会事務局教育改革推進課の清水です。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長選出までの間は、こちら事務局のほうで進行いたします。よろしくお願いいたします。

本日の流れにつきましては、表紙にあります次第に則って進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。

本来なら遠藤教育長が皆様お1人お1人にお渡しするところでございますが、既に皆様の机上にお配りをしております。

これをもって委嘱状の交付に代えさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

それでは、熊本市教育委員会遠藤教育長がご挨拶を申し上げます。

【遠藤教育長】

改めまして皆さんこんにちは。ご紹介頂きました熊本市教育長の遠藤です。

この部活動改革につきましては、ちょうど2年前、令和4年の12月に、最初の部活動改革の検討委員会を立ち上げまして、それから約2年議論を進めてきたところです。

今年の3月に答申を頂いて、その後、事務局のほうで、詳細を検討してきたということになっております。

1番最初2年前に、第1回の会議のときに私が申し上げたことは、国の方針はあるけれども、私たちは熊本市にとって何がベストなのかということをしっかり議論をして、熊本市のやり方を考えていきたいと。是非そのために皆さんのお知恵をお借りしたいということで、お願いをいたしました。

おかげさまで、熊本市としては、これまで部活動が担ってきた様々な役割を踏まえて、学校で部活動を継続しながらも、地域と連携して、持続可能な形に新しい部活動として、やっていくという方針になっております。

今、その答申を頂いたものを踏まえて、市としての素案というものを作っております。

これを今度の3月に正式に新しい熊本市の学校部活動の案として決定をしたいと思っておりますので、今回は正式な案の決定に向けて皆様方から具体的に地域との連携、それから指導者の研修、そうした今後の課題になってくるところについてご意見を頂いて、3月の方針決定に生かすと、こういうスケジュールで進めさせていただきたいと思っております。

少し期間は短くなりますけれども、その分集中して議論ができればと思っておりますので、是非前回から引き続きということになる方も多いと思いますが、忌憚のないご意見を頂きながら、熊本市のこどもたち、そして教職員、そして保護者、地域の皆さん、全ての関係者にとって、良い案ができるようにお力を頂ければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【清水教育審議員】

では続きまして、委員の皆様の紹介に移ります。

お配りしております資料3ページにある委員名簿をご覧ください。

順番にお呼びしますので、着座にて自己紹介をお願いいたします。

—委員紹介（省略）—

【清水教育審議員】

ありがとうございました。本日は7名の委員にご出席頂いており、委員定数7名の半数以上がご出席ですので、「熊本市部活動改革検討委員会運営要綱」第6条の規定により、本日の会議は成立をしていることをご報告いたします。

また、同要綱第7条の規定に基づき、本委員会は公開とさせていただきます。

次に、本検討委員会の委員長の選出に移ります。運営要綱第5条の規定により、委員長は委員の互選となっております。委員の皆様からご推薦などはございませんでしょうか。

はい、お願いいたします。

【西島委員】

今回は、前回の答申を受けて具体的に進めるということですので、前回委員長をしていただきました坂下先生に引き続きお願いできればなと思っております。

【清水教育審議員】

ありがとうございます。

坂下委員ということでご承認頂けますならば拍手をもって承認していただければとお願いいたします。

(一同拍手)

ありがとうございました。

では坂下委員に委員長をお願いいたします。

坂下委員は中央の委員長席へご移動をお願いいたします。

ここで、委員会への諮問書を委員長にお渡し申し上げます。

ありがとうございました。

(諮問書の手交)

ではこの後審議に移りますので、進行を委員長をお願いいたします。

よろしければ、坂下委員長からお一言頂戴頂ければと思います。

【坂下委員長】

着座にて失礼いたします。一言ご挨拶申し上げます。

昨年度の部活動改革検討委員会におきましては、委員の皆様より、たくさんの貴重なご意見を頂きまして、答申としてまとめることができました。答申を踏まえて、事務局のほうで、新たなアンケート調査、そしてこどもたちのワークショップ等を開催していただきまして、今回は、具体的な案として素案を提出していただいているところでございます。

熊本市の答申は注目を集めておりまして、夏に福岡大学で開催されました、日本体育スポーツ健康学会の体育経営管理セミナーにおいても、取上げていただいたところでございます。2027年度の実施に向けての具体的な取組を検討する重要な会議でございますので、二回の会議におきまして、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、議事に移ってまいりたいと思います。

運営要綱第5条により、副委員長を選任することになっておりますので、龍田地域なかよしスポーツクラブで相談役をされておられます西島委員にお願いしたいと思いますが、皆様ご賛同頂けますでしょうか。

ありがとうございます。それでは西島委員、どうぞよろしくお願いいたします。

では、報告に移ります。

まず、当委員会の今後の進め方についての確認を行います。

本日の進め方ですが、この後、事務局から「熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方（素案）」の報告を聞いた上で、委員の皆様それぞれのお立場からのご意見を伺いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、当委員会における議論は、今回を含めまして、今年度2回予定しております。

それでは、事務局より、「熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方（素案）」について、報告をお願いいたします。

【朽木教育改革推進課長】

—事務局説明(省略)—

【坂下委員長】

ご説明ありがとうございました。

それでは今報告がありました、「熊本市立中学校における新しい学校部活動の在り方（素案）」について、ご意見やご質問がある方は、ご発言をお願いします。

はい、千田委員お願いいたします。

【千田委員】

桜山中の千田でございます。ご説明どうもありがとうございました。

何点かあるのですが、8ページ「新しい学校部活動の名称」ですが、国のほうが「地域移行」という言葉を使っておられて、またこの前は「地域展開」という言葉も使われたと思います。この資料にはたくさんの「地域移行」という言葉が使われています。どの言葉をとっても地域というのは共通なのです。地域の人材を活用してというところは変わらないと思います。

そういうことも踏まえると、やはりこの部活動の名称というのはとても大事で、1回マスコミのほうで、熊本市は部活動を続けますというふうに出たのですが、確かに続けるのですけれども、内容は今までと大幅に変わるわけですから、ここはやはり、早く名称に関しては、我々も部活動というよりは「新部活動」とか、これからは何か使っていくほうが、より分かるのではないかなという気がしました。

それと、15ページの受益者負担です。月3,000円程度ということで、これも1回、前回の検討委員会でも出ましたが、あとこれに、多分恐らく部費が必要になるのではないかなと思うのです。

あくまでもその受益者負担の 3,000 円というのは、恐らく人への報奨のお金の部分に充てられるお金と思うのですけれども、あとプラス部費、例えば私が部活動していたときには吹奏楽部で月々の部費が大体 2,000 円ぐらいかかっていたのですけれども、それプラス受益者負担で「3,000 円が必要です」というところは、あらかじめ出していたほうが、のちのち、「え、3,000 円でできるのではなかったのですか？部費もさらに必要なのですか？」とか、そういうところは出てくるのではないかなと思ってちょっと心配しています。

【朽木教育改革推進課長】

まず 1 点目の新しい名称についてですが、例えば、神戸では「コベカツ」、静岡では「シズカツ」という名称が使われています。

先日、中学生のワークショップでも、名称の候補について意見を聞きました。例えば「楽しも隊」や「ファンクラブ」といった案が中学生から出されました。来年、小学校 4 年生から 6 年生、中学校 1、2 年生に公募で意見を聞き、決定したいと考えています。

2 点目の部費についてですが、先ほど千田委員からもありました通り、部費はそれぞれの活動で差があるため、具体的な金額を示すのは難しい状況であることから記載していません。平均すると 1,600 円程度ですが、無料の部活動もあれば、3,000 円程度の部活動もあります。そのため、素案からは金額を外しています。

【坂下委員長】

今のご質問に関連してでも構いませんけれども、ご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。

【西島委員】

千田委員のご指摘、その通りだと思っております。

今、金額をなかなか示しにくいというお話でしたが言葉では入れられると思うのです。

基本的に先ほどお話し頂いたように、この 3,000 円は指導者の謝礼とか人材バンクの経費で、もうそれぞれ自分たちでやっているのだからプラス分の部費については分かっていると思うので、「プラスこれに現在の部費が入ります」という形のことを書き加えないと、先ほどのようなご指摘になるのではないかなと思います。

それと部活動の継続は熊本市教育委員会の英断だったと思います。ほかの市町村はほとんど地域移行しています。地域移行というけれども、地域が放課後にやっているというところはほとんどないのです。

以前、掛川市の事例を出されたと思いますが、基本的に夜の活動を週 2 回程度で 4000 円ぐらいの金額でやってらっしゃる。放課後にやるというのが前回の検討委員会でもあったように教育的意義という話も含めて、非常に大事なところなのです。

また、今後、保護者等に説明されるときに、今までの部活動と新しい部活動と比べられると、「昔より落ちるじゃないか」という話しか出てこないのではないかなと思いますので、「地域の人たちが入ることによって、こういう事にメリットがあります」とか、「よそと比べたら

熊本市は、はるかにいいのです」というお話もしながら、やっていただければいいかなと思っています。

今、保護者間の中でも新しい部活動についての話が少し出ているみたいです。

今までは先生たちに保護者が、「何でこんなレベルが低いんだろう」とか、指導者に文句を言っていたということですが、そういうのをやめなくてはという話も出てきているようです。基本的にスポーツを楽しむというのが中学校の部活動の意味なので、その辺の意味も含めてお話頂ければありがたいなと思ったところです。

あと、熊本市の場合は、私どもの総合型の方もそうなのですが、放課後に指導者を派遣できるというような体制がないというのもこういう形になった要因の一つです。

休日とか夜間については、地域で協力できるところもあると思います。今、週に5回と書いてありますが、5回を学校ですするというのは、まず基本でいいのですけれども、例えば3回しかできなければ、夜に1回2回地域でやるとか。そしたら夜であれば総合型のクラブでも、協力できるかなと思っていますので、地域と学校と連携しながら、進めていくような部分をちょっと入れていただければありがたいと思います。

以上です。

【朽木教育改革推進課長】

最後の点は、また西島委員へご相談させてください。

よろしくお願いします。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。

受益者負担のところは、誤解のないような記載といいますか、そこは今委員からも出ておりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

ほかの委員の皆様どうぞご忌憚のないご意見、ご質問お願いいたします。

【藤本委員】

藤本です。指導者育成で11、12ページです。人材バンクの設置の件も含めまして、競技経験者という方は、かなりどの地域でもいらっしゃると思います。

イコール指導ができるかというのは、ちょっと競技スポーツと指導のスポーツが違いました、その実習というのがやはり足りてない方がいきなり指導者になってしまうと、自分の中学生の時代の指導、20年ぐらい前です。今スクワット一つにしても、ゆっくり止めて10秒キープしてそれから上げる。昔みたいに屈伸をいっぱい繰り返すのではなくて、それなりのいろいろトレーニング方法も変わっています。

ですから指導者の方を募集するに当たって、その実習、育成が大切です。

それと、指導者はいつまでも長くできるものではないので、1,600人確保ということではなく、2,500人とかいっぱい集めて、次々要請をされていくということではあると思うのですけれども、不足している現場実習、その辺も考えていらっしゃるのか、お伺いしたいと思

います。

【朽木教育改革推進課長】

最後の 27 ページの資料にもありますが、研修体制の構築は新しい学校部活動の成功に非常に重要な点であり、課題の一つでもあります。この点については検討委員会で議論し、ご意見やご提案を頂ければと思います。教育的意義を重視しながら研修を進めることが重要でありますし、先ほどありました通り、コーチング理論や最新のトレーニング理論も必要です。そのような研修の機会を必ず確保したいと考えています。

【坂下委員長】

はい、よろしくお願いいたします。

どうぞ、ほかの委員の皆様、よろしくお願いいたします。

【田中委員】

お世話になります。本当丁寧に作っていただいております、よく分かりやすいです。

ありがとうございます。

活動の開始時間、活動時間についてはここに触れてないようですが、どうなっているのか教えていただければ助かります。

【朽木教育改革推進課長】

現在、内部で検討中であり、まだ決定はしていませんが、平日は 17 時からを予定しております。

【田中委員】

この内容だけ見ると、神戸市が今後行っていく予定の活動の地域移行と余り変わらないように見えてしまうところがあります。

また平日 17 時からの開始、これは教員ではない指導者の来られる時間だと考えられるので、これはしょうがないと思うのですが、約半数 800 人の学校の先生方を今見込んでいるとすれば、やはり学校の先生方が働きやすく魅力のある部活動にするには、部活動のよさというか、子どもたちにも先生方にも、授業から引き続きそのままの場所で行えるということがやはり魅力的なものであると考えます。

そして長期休業中も平日 17 時から来ていただくとなると、本当に先生方に対して、働きやすく魅力がある部活動になるのかなというところが、心配なところでありましたので、お聞きしたところでした。

もしも、またこの部分も検討していただけると、先生方も心配されていますので、教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【朽木教育改革推進課長】

神戸の事例とは大きく異なると考えています。一つは、学校部活動を残すことで市が責任主体となり得ることが大きな要因です。また、学校部活動を残すことで教育的意義も継続できる点が大きな違いです。

先ほどの時間の件ですが、特に長期休業期間中の開始時間は大きな課題です。学校現場とも調整しながら検討を進めたいと思います。ただ、アンケート結果では、長期休業期間中の活動時間帯について、保護者、こども、学校も含めて午前中が良いという結果が出ていますので、それも参考にしながら検討を進めていきます。

【千田委員】

長期休業中はやはりこどもたちもとても忙しいのです。

大体もう夕方からはどこに行っているかという、塾だったり、あるいは部活動以外の習い事に行くとかです。そういうところは今までもそうでしたけれども、これからも多分そうだと思います。

部活動を長期休業中どの時間帯でやるのかというのは、やはり検討していくべきだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【坂下委員長】

ありがとうございます。一つの検討課題としてお願いしたいと思います。いかがでしょうか。細かい点でも構いませんのでどうぞお気づきの点がありましたら、質問等を出していただければと思います。

【田中委員】

チャレンジクラブについて質問です。

以前もお尋ねしたところですが、平日の週 1、2 回、1、2 時間程度実施すると聞きました。しかし学校施設は、ほかの部活動がやはり優先して使っていく。これを週 2 回ほど使ってしまうと、例えば冬場は、日の暮れる時間も早いので、「チャレンジクラブの後にまた部活動をします」となると、結構な時間になり、開始も遅くなり、また帰る時間も遅くなるという事を考えると、チャレンジクラブを各学校で設置するのは大変なのかなと思いました。

【朽木教育改革推進課長】

令和 7 年度、8 年度にもモデル事業を実施したいと考えていますが、令和 9 年度にすぐ全校に設置するわけではありません。先ほど田中委員からもありましたとおり、こどものニーズや学校の説明、指導者の確保の条件が整った段階で開始したいと考えています。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

清田委員いかがでしょうか。保護者の立場からありましたらお願いいたします。

【清田委員】

前回の委員会でもお話しさせていただいたのですけれども、ニュースなど興味を持って情報を入れている保護者さんと、全く情報を得ていない保護者さんの差があるので、ここをもっと私もどういうふうにやるというのは案としてはないのですが、例えばPTAを活用して保護者にこういう内容でやっていくということを周知していく。

やはりまだ先生たちが、ボランティアで部活をしていることさえ余り意識のない保護者さんも多いので、そこをもう少しどうやって保護者の皆さんに理解をしていただくかが課題かなと思っています。

【朽木教育改革推進課長】

保護者への周知や広報は非常に重要です。現在もPTA協議会と連絡を取りながら進めています。来年度には、チャレンジクラブや冠大会などの新しい部活動に変わる様子を映像に撮り、それを広く周知・広報・PRに使いたいと考えています。

【西島委員】

今、清田委員がおっしゃったように、やはり保護者の中でも、そういう意識を持ってらっしゃる方とそうではなくて、「学校部活動は形そのままよね」と安心されている方も多くいらっしゃいます。そこがやはり問題で、先ほども冒頭申し上げたように、今度新しい部活動としてどういう形でやっていくのかという話と、今までの何でこの部活動が成り立っていたのかという辺りも話をしないといけないのではないかなと思っています。

それともう一つは、ここで決めたり、市のほうから指針を出したりとか、それも結構なのですが、それぞれの地域によって事情が違うのです。

周辺部に行くと、学校同士の距離が離れています。天明と河内と合同でチームつくるときは土日しか活動が一緒にできないのです。

一方、私の住む龍田地域では龍田と楠と武蔵は自転車で10分ほどの時間で行けるので、平日でも授業終わって17時にはみんなそろえることが可能です。

それぞれの学校でどういうふうな形で学校部活動をするのか、ここはあくまでも指針で、その学校、地域の学校が幾つか集まった上で、そういう話をしていたほうがいいと思います。そこに生徒の思いもあるし、保護者の思いもあります。

また、保護者が自ら主体になることによって責任が出てきます。人は批判だけしかしません。関わることによって、「こういう状況があった、それは、こうするしか仕方がないよね」とか、そういう話が出てくればいいと思うので、26ページ「9. 今後の進め方」のところにも、一応、周知・説明という形になっているのですが、ここの中で、令和7年度あたりに周知して、令和7年度後半ぐらいから、それぞれの学校で、自分たちの部活動をどうやっていくかということを、地域・学校ごとに話す。

そうすると、そこで「拠点校隣同士だったらできます」とか、「平日はできるけども、こことここは遠いけれども休日だったらやれる」とか、そういう話が出てくると考えていますので、その辺をちょっと入れたほうがいいのかなと思います。

小学校部活動のときはその辺の話が上手くいかなかったので、ただ単に「小学校部活動廃止します、社会体育に移行します、だからどこかに受け皿をつくってください」という話しかありませんでした。

その段階から保護者と地域とそこへ綿密に話をする。そしたら総合型のほうも、先ほど申し上げたように、夜間だったら出来るのであれば、週に5回やるのだったならば、夜間に1回やりましょうよと協力ができる。

例えば、昼間しか送迎ができないという保護者のアンケートもあるので、「4回は学校でやるけど、1回は」という話も、そういう形もできると思うので、ここの中に今後の進め方の中にそういう会議体といいますか、主体的に保護者、生徒が中心となったような検討会議みたいなのを学校内に作っていただければと思います。そこに地域も参加させていただければ幸いです。

以上です。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございました。

それぞれの地域の特徴といいますか、それを踏まえて、こども、保護者、学校、地域、そういうような会議体というのを、これから検討していくことが求められるということだったと思います。

ご意見、ございませんでしょうか。

【千田委員】

熊本市は、体育部活動のほうで体育部活動振興会というのがありまして、各地区でブロックの研修会があります。私は北部ブロック研修会に、12月5日に参加したのですが、そこには部活動の担当と管理職の先生等が来られて、いろいろ協議をして話をするのですが、その中で、先生方から「結構報道で後から知ることが多いので、我々現場の職員からも意見を聞いてもらえるような場を設定してもらえないですか」というご意見がありました。

そのときは、「これどうやって伝えようか」と言われていたので、「私が伝えます」ということでお話をしたのですが、これまで、本当に課のほうで熱心に各学校回られて、方向性とかそういうところは説明をされています。そこはとてもありがたいと思っています。この冬、桜山中も昨日あったのですが、今度先生方にまた資料を使って、今後の方向性であったり、拠点校部活動の説明も行いました。

あとはアンケートとかもされますけれども、管理職だけではなく、現場の先生方からも是非意見を聞くとか、そういう場も設定していただくと、とてもありがたいと思います。

関連してよろしく願いいたします。

【坂下委員長】

ご意見ありがとうございました。今後参考にさせていただければと思っております。

ほかにございませんでしょうか。
よろしくお願いいたします。

【藤本委員】

すいません、ちょっとご質問です。
指導者を集めるに当たって、熊本市、熊本県の競技団体との連携とかは考えていらっしゃるのでしょうか。お願いします。

【朽木教育改革推進課長】

もちろん競技団体との連携も考えておりますので、改めてご説明に伺いたいと思います。。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。
それではですね、時間も来ておりますので、本日より予定しております協議に入りたいと思います。
本日の協議は、「今後の新しい学校部活動の課題」ということで、二つ挙げております。
最初に事務局から資料を説明していただき、そのあと委員の皆様からご意見を頂くというふうに考えております。
それでは、最初に、事務局より、「(1) 指導を希望する人材の確保の方策」について説明をお願いいたします。

【朽木教育改革推進課長】

— 事務局説明（省略） —

【坂下委員長】

はい、ご説明ありがとうございました。今ほどですね、「指導を希望する人材の確保の方策」について説明頂いたところですけれども、大変重要な部分になるかと思います。
ご意見、ご質問をお願いいたします。

【田中委員】

先ほど千田委員のほうからもありましたが、私は体育振興会、部活動振興会のブロック研修で、令和9年度になって、「実際に指導者が見つからなかった場合、こどもたちは一体どうなるのでしょうか」という、保護者、先生方、校長先生方も含めてそういう意見がありました。
私自身も、4月からの新入生が3年生になったときに、令和9年になりました。部活動の体制が変わります。目の前には2年間活動してきたこどもたちがいるのに、「指導者がいない場合はどうなるのでしょうか。」と聞かれます。
私は、お答えすることはできませんから、そこも「今後、会議等でお尋ねはしていきます。」

ということをお伝えしていますが、そのような意見がたくさんあります。このような心配な面を含め、2年後の体制について教えていただければと思います。

【朽木教育改革推進課長】

そのようなご意見、多く頂いております。そういったことがないよう、今後計画的に進めていきたいと考えています。もし指導者が揃わなかった場合、部活動ができない可能性もありますので、2年間かけて準備を進めたいと思います。

【坂下委員長】

ありがとうございました。ほかの委員の皆様どうぞ、ご質問、ご意見等お願いいたします。

【千田委員】

今の協議が「指導を希望する人材の確保の方策について」ということなのですけれども、地域連携ということですから、やはり各学校で地域の人材を掘り起こすことが1番大事かなと思います。地域で出来る人が、まだ分かっていないけども居るかもしれないです。資料の11ページの下段のほうに、「指導者の想定」と書いてありますが、それには、教職員の希望者が800人と記載してあります。あと、地域住民希望が53人となっておりますが、ここをもっと増やしていく必要があるのではないかと思います。

地域の住民で、教職員じゃないけども退職された方とか、「色々できますよ」や「前されてましたよ」という方もおられますから、そういうところを掘り起こす。それは、地域は地域でしか分からないところがあるので、学校がやはり頑張っているいろいろな伝手で聞くのが大事なのかなと思います。

それと、令和9年に、部活動が新部活動に移行したときに指導者がいないという事態は本当に避けたいので、あとは、「先生方はしなくてもいいですよ」とは言っていますけれども、「ちゃんと指導費を出しますから、良ければしていただけませんか」と。月7万円の12か月となったら80何万ぐらいになりますよね。今までと全然違いますよね。

私がやっていたときは、ワンコインだったのです。何時間やっても500円。そんな時代だったのです。だから、そういうことも含めて、先生方にも良ければやっていただいたら、こんなふうになります。そのためには教職員がやりやすい環境というのも考えていかなければいけないのかなという気がしています。

【坂下委員長】

大変貴重なご意見ありがとうございます。事務局お願いします。

【朽木教育改革推進課長】

先ほど千田委員からご紹介がありました11ページの下段の指導者想定地域住民希望者53名ですが、これは熊本市のLINEアンケートでとったもので、あまり効果的な聞き方はなかったと考えています。現在、横浜市は部活動指導員を500人以上抱えています、

実際には学校が地域から募集をかけて集めていると聞いています。横浜市とかとも連携しながら、詳しい情報を取っていきたいと考えています。

【西島委員】

関連ですが、小学校部活動が社会体育移行した時に、学校と地域と保護者と話す機会というのが、指針が出されただけで、ほとんどなかったのです。そういう中で保護者がどうしたかという、続けなくちゃいけないので、保護者が指導者や受け皿を必死に探し、それを校区体育協会とか、うちの総合型が受け持った部分もあります。基本的に地域の中に掘り起こせばどうにかできると思います。

小学校の部活動が、社会体育移行して5年ほど経ちますが部員がかなり減ってきています。それで基本的に4年生以上だったのが、成り立っていかないので、3年生とか2年生まで入れている部活動も結構あるのです。基本的に4年生からやるのであれば、中学校との連携という辺りも考えても大丈夫かなと思っています。すると小学校の指導者の方たちが、中学校も見られると。要するにそこで育ったこどもたちが中学校でも部活しているわけなのです。そういう連続性といいますか、継続性とかも出来るのではないかと思います。その辺は今53名というのは、これを教育委員会だけで掘り起こしてくれとは思いませんので、学校とか保護者が、やはり自分たちのこどもたちを見る人たちを探してもらうということが非常に大事かなと思っています。

そこでやはり先ほど藤本委員のほうがおっしゃったように、その人たちにはちゃんとした指導の研修とかが必要かなと思っています。

ちなみに、去年の12月のサッカー協会の方で、一応4種という1番下の小中学生の指導するような免許があります。

おとしは、20人募集していたのに10人ぐらいしか来ませんでした。また5月は全然来なかったもので、中止になりました。去年は、部活動が今度地域移行するということで、11月に募集をしたのですが、申し込みがいっぱいでお断りされて、基本的にサッカー協会は1月にまた再度開催されたのです。

実際やろうという人たちはそういう研修も受講されます。うちのクラブでは、研修の経費をクラブで出すのですけれども、そういう経費辺りを持っていいただければ、いいのかなと思っています。

教育委員会では限界があると思います。いろんな企業とかスポーツ団体を回ってらっしゃる努力は分かるのですけれども、やはりせっぱ詰まった人間が探すというのも一つかなと思っています。

【藤本委員】

すみません、今、西島委員のほうから地域の指導者の発掘について話があったのですが、私の経験談として、10月に地域の運動会に私も地域で体育指導員していますので参加しました。こういう仕事をしておりますので、足は速いほうで、必ずアンカーを務めているはずだったのですが、ものすごく足の速いご夫婦が参加していらっしゃって、マンションが出

来たので引っ越していらっしゃったのですけれど、お話を聞くと、大学の人に、ご夫婦は同級生でハードルの選手だったということです。そういう方が地域にはいらっしゃるのです。まだ三十五、六歳の方だったので部活動を1年中は見られないと思うのですけれども、例えば外部コーチとか、そういうオプション的に指導者以外で、ワンポイントの四半期に1回のレッスンコーチみたいな感じでのバンク登録というのもありなのかな、と個人的には思いました。その点はいかがでしょう。

【朽木教育改革推進課長】

先ほど素案にもありましたが、指導者が5日間すべて出るのは時間的に難しい面もあり、4人体制にしたいと考えています。そこでローテーションを行い、4人で回すことも考えています。その点も含めて今後検討してまいります。

【平江委員】

3月に1回これが終わって、それから随分進んだなというイメージを思っています。これだけの資料をつくるのに相当時間かかったんだろうなとまず思いまして、本当にご苦労さんだなと思います。

今、地域の話が出まして、私もそれこそ地域に住んでいるものですから、そういう意味では私の周りにもあんまりどなたが住んでらっしゃるか、実は余りよく知らないのです。地域は昔でいうと、言葉悪いですけど、以前はどこに誰が居て、何とか結構よく知っていたのです。でも今はそういう社会ではなくなってしまって、それが一つまず問題かなと思います。

以前は学校と家庭と地域があったけど、その地域がなかなか今、動いてないという、そういうのが本当にあるのです。私は、富合町の文化協会で動いていますが、こどもたちがあんまり見えないのです。大人はいっぱい居ます。

でも、こどもたちの活動がなかなか見えない状況が田舎でも同じです。基本的に言うと、外でまず遊んでいません。私たちは月に1回、どこかでも言ったかと思いますが、自分たちの仲間を集めて、こども広場でソフトボールをしています。おじいちゃんたちが、こども広場でやっているのに、こどもが来ないのです。それが現状なのです。こどもたちは想像ですけど、多分家でゲームか何かしているかなという感じです。

それから、広場がまずあんまりないです。外で遊ぶ広場がない。そうすると、もう学校のグラウンドぐらいしかないのです。そういうのも一つは問題かなと。遊ぶ場所がないのです。田舎でもないのです。本当にありません。今言ってもしょうがないかもしれませんが、だからそこで地域が交わる場所がないのです。

その付近を考えて、これから考えていかなきゃならないとは思いますが、今出ましたその地域の掘り起こし。これは田舎には回覧版があるのです。いろいろな情報は回覧版で来ます。回覧版に、学校からいろいろ要望があれば、案外答えてくれる人がいるかもしれません。そういうことをしない限り、誰がどこに住んでいるかは、なかなかよく見えません。

それと、ちょっと気になったのが、資金の問題です。これは最終的にやはり相当絡んできませんかという気はします。

いろいろグラフで出ていますが、私は実は先ほど言いましたようにお母さんコーラス連盟という会長をしているのですけれど、ここには熊本銀行さんから後援金が出ます。それがないと僕らはやっていけないのです。それ随分前からちょっと入っているのですけど、もうとっても助かります。熊本には大きな企業がいっぱいありますし、そういうところに働きかけていかれると、もちろんその趣旨を説明しながら働きかけていかれると協力してくれるところはあるかなと思います。熊本の企業も大きな企業も来ましたし、これから熊本市は、こういうことで部活動やっていくのです、と説明していければ、公のお金じゃない、そういうお金で賄える部分はあるのかな、という気はします。

2年話し合いしまして、ここで今3年目です。これからあと2年話して、あと3年間ですね。それがどういうふうに変化していくかというのが、もちろんこういう話の中から進めていくんでしょうけれども、1番考えなきゃならないのは、やはりそのこどもたちの現状をしっかりと把握しながら進めていってもらいたいという思いです。大人だけの発想でやってしまうと、どうしてもこどもたちはそれだけでは動かないと思います。

先ほど西島委員からもありましたように、結局小学校の部活動はほとんど今忘れられてしまいました。田舎でもそうです。ほとんど動いていません。以前はもっと活発に動いていたような現状がありましたけれども、たまたま僕は、城南町ともちょっと繋がりがあるのですけど、城南町では、文化協会と小学校が割と繋がっています。今度、熊本市の文化祭があるのですけれど、その前に南区の文化祭というのもあり、それにこどもたちが出るような取組をしています。それは、あまり皆さんご存じないかもしれませんが、やはりその大人とこどもの繋がりがあるのです。それはそれぞれの地域で頑張っていかなければいけないところもあるかもしれませんが、ちゃんと指導してくれる人たちもいます。それを是非大切にしていきたいと思います。ちょっと意見とまらないところがありましたけど、よろしくお願いします。

【朽木教育改革推進課長】

2点お答えいたします。

1点目、企業の協賛についてですが、先ほどもご説明しましたように、「My プロデュース」という会社と連携協定を結び、今後企業協賛を進めていく予定です。My プロデュースからは、中学校の部活動と連携したい企業が多くいると聞いていますので、令和9年度に向けて着実に進めてまいります。

2点目、こどもたちの意見を聞くことについてですが、私も今年度の中学生のワークショップに参加しました。こどもたちは私たちが思いつかないような発想を持っているので、今後小学生を含めてワークショップを開催していきたいと考えています。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。是非、今後続けていっていただければと思います。

それでは、時間もおしておりますが、もう一つ今回協議を準備されておりますので、事務局より、(2)の「指導者の研修体制の構築に向けた方策」について、ご説明していただければ

と思います。お願いいたします。

【朽木教育改革推進課長】

— 事務局説明（省略） —

【坂下委員長】

今説明がありましたように、次回、詳しく検討させていただきますけれども、大変重要な部分でございますので、現時点においてご意見等ございましたら、頂戴できればと思います。

ご質問等でも構いませんので、お願いいたします。

藤本委員いかがでしょうか。なにかご質問ございましたらお願いいたします。

【藤本委員】

非常に研修内容、すばらしい内容だと思います。

一つ、どうしても座学だけでは先ほども申しましたように、実際の指導は、体育館の中とかグラウンドとか、先生でいうと教育実習ですね、実習的なところでも加えていただきたいなというところもありますので、また次回に詳しくご説明頂ければと思います。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。ほかの委員の皆様いかがでしょうか。指導者研修ということは答申においても述べたところでございます。

【田中委員】

質問になります。令和7年度からの人材バンクの設置、それからこの確保体制ですね、具体的にはどんなふうになりそうか見通しを教えてくださいと有りがたいです。

【朽木教育改革推進課長】

人材バンクについては、最初の説明にもありましたが、令和8年度からの設置を考えています。予算の要求状況もあり、まだ確定していませんが、令和8年度に設置し、1年間かけて準備を進めたいと考えています。

【田中委員】

すみません、先ほども申しましたが、本校の部活動振興会やブロック別の部活動振興会にて、私も少しお話をしたのが、令和9年から、先ほどやはり心配しているところを、ただ私たちが教育委員会にばかり任せるとか頼るのではなく、地域の中で、今後、指導していただける方をこの2年間で発掘するのは、これは学校や地域の役割ではないかということをお伝えしました。

先月は小学校のPTA、校長先生方との会議があり、その中でも同じようなことをお伝えしました。そのあと、良い反応として、「〇部だったら〇〇さんが居る、△部だったら△△さ

んが居ます。□部は探します」というご意見を結構頂きました。ただ、「それはいつどこでどのように、人材バンクに登録すればいいのですか」と質問がありました。

そこは私も分かりませんので、今後出てくると思いますが、広く周知をしていただくと、この2年間、2年しかないではなく、この2年間で少しでも私たちも有効に使って、地域から、そういう人材を発掘することができるかなと思ってお聞きしたところでした。

【朽木教育改革推進課長】

本当にありがたいお話だと思います。

先ほど人材バンクの設置は令和8年度と申しましたが、人材や指導者の募集はもっと早く始めます。予算の要求状況はまだ決定していませんが、現在マッチングシステムの要求をしています。その整備ができ次第、遅くとも来年の12月までにはシステムが整うと考えていますので、その前後に指導者の募集を始めたいと考えています。

【平江委員】

8ページの新しい部活、学校部活動の名称なのですが、これが実は私はとても大切ななと思っています。いろんなことを説明するときに、やはりこの名称が決まってから動くのだと思うのです。これに期限が書いていないのです。この前の1番最後の会議のときに、この名称については千田委員のほうから、何か名前を、という話が確か出ました。そのときに、あまり何か議論することなく、実は3月で終わりました。ただ、この「新しい部活動」という名前が確か出てきました。この名前じゃなくて、多分これから変わっていくんだろうと思うのです。そうでしたら、この名前はかなり早めに決めてもらいたいという希望です。これをもとに、いろいろなことが動き出すような気がするのです。

やはり名称はとても大切です。「新しい部活動」ではなかなかまだちょっと弱いかなと思うので、ここが決まっていくと、それを基にいろいろな部署が動き出すのではないかなという、これは私の考えなのですが、そういう気がするのです。

やはり名前というのはとても大切に、実は私は熊本市の文化協会も入ってしまして、説明に来られました。でも、皆さんが全部理解するかはすぐにはなかなか難しいのですよ。「こういう名称で、こういう形で」と言われると、「あ、そうなんだ」という、それはかなり説得力が僕はあります。そこをできるだけ早めに決めていただいて、それから皆さんが動き出すという形は割といい形になるのではないかなと思うので、よろしくお願いします。

【朽木教育改革推進課長】

今までは素案の策定など、市の方針に力を入れてまいりました。これまで教育委員会会議、議会、部活動改革検討委員会に素案を出し、大まかな方向性として良いというご意見を頂いております。名称についても、来年度が始まり次第、早いうちに決めていくよう進めていきたいと考えています。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。それでは本日のご説明、全体を通しまして何かご質問・ご意見等がありましたら、お願いいたします。

【千田委員】

すいません、先ほどの人材確保のところではよかったですけれども、先生方に携わっていただくことも大事ではないかなという話を、先程したのですが、自分の学校に出来る部活動がないという先生もかなりおられるのです。だから、部活動コーディネーターさんもおられるし、今度拠点校部活動と言って学校同士のペアリングとかもあるのですけれども、自分の学校以外に指導に行けるといいうところも、質問されたことがあるのです。「多分そうなると思いますよ」位しか私は答えられなかったのですけれども、そういうのも明記していただくと、「次からは自分が出来る部活動が他所にあったならば、そっちに行ってもいいのですよね」というようなのも、先生方が理解されます。そしたら、「じゃあ私できますよ」というのも出てくるといいますので、あわせてそこも是非入れていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

【朽木教育改革推進課長】

制度設計上、自宅近くの学校に通えるようにすることや、他の学校の中学校の部活動に関わること、小学校の先生が中学校の部活動に関わることも可能とするように考えています。その点も含めて制度設計を進めていきたいと思っています。

【坂下委員長】

はい、ありがとうございます。ほかの委員の皆様からございませんでしょうか。
本日もたくさんの貴重なご意見を頂戴したと思います。第2回の会議に是非つなげていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、時間となりましたので、ここで本日の議論を終了したいと思っています。
次回は、資料で示された検討事項について、さらに議論を深めていきたいと思っています。
後日、お気づきになられたことなどございましたら、教育委員会事務局教育改革推進課の方にご相談ください。
なお、本会議の議事録につきましては、事務局にて作成の後、委員の皆様へ送付されますので、ご確認頂きますようお願いいたします。
その後、私のほうで最終確認を行い、確定させていただいてもよろしいでしょうか。
はい、それでは、議事録につきましてはそのように取り扱わせていただきます。
ではこれもちまして、第1回熊本市部活動改革検討委員会を閉会いたします。委員の皆様のご協力によりまして、スムーズな進行することができました。大変ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【清水教育審議員】

坂下委員長、ありがとうございました。

事務連絡を2点いたします。

まず1点目です。配付しています会議資料のファイルは、机の上に置いて帰られても結構です。置いて帰られましたファイルにつきましては、第2回検討委員会時に机の上にセットをさせていただきます。

2点目です。第2回検討委員会は、今回と同じSPring 熊本花畑町ビル7階D会議室において、3月18日火曜日、または、19日水曜日の開催を予定しております。

詳細につきましては、改めてご連絡をさせていただきます。連絡は以上でございます。

では、これをもちまして、第1回熊本市部活動改革検討委員会を閉会いたします。

本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。